



ビジネストーク

「お金の流れで地球環境を守る」

頭取 大道良夫

いま、「地球の危機」が叫ばれています。人口急増による地球資源の枯渇など環境問題への対応は一刻の猶予も許されず、まさに人類存亡の岐路と言っても過言ではありません。

国連の「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)は3月31日、横浜市で地球温暖化に関する最新報告書を公表しました。報告書では、気温が20世紀末比2℃以上上昇すると生態系や気象などへの影響が大きく、食料生産減少や大規模な移住、紛争、貧困などの深刻な問題を引き起こすと指摘しています。

また、報告書では、リスクとして「海面上昇や高潮被害」「大都市での洪水」「極端な気象によるインフラの機能停止」「都市部で熱波による死亡や疾病」「気温上昇や干ばつによる食料安全保障の脅威」「水資源不足と農業生産減少」「海洋生態系の喪失」「陸上生態系の喪失」の8項目を列挙しています。日本でも今世紀末に、気温は3.5〜6.4℃、海面が60〜63cmそれぞれ上昇するなどの予測も示されました。

私たちは、この「最悪のシナリオ」をなんとかして回避し、豊かな自然とその恵みができるだけ多く子孫に遺さなければなりません。報告書は、将来のリスクに対し「経済的、社会的、技術的、政治的決定や行動の変革が、気候に対してレジリエント(強靱)な経路を可能とする」と結ばれています。

温室効果ガスの思い切った削減や被害を減らす「適

応計画」の実現は並大抵のことではありませんが、私たちの企業活動も、「環境保全」の視点から、報告書の結びにある「決定や行動の変革」が求められています。

一方、個人の生活では、IPCCが身近な暮らしのなかでできることとして推奨している「省エネを心がける」「ガソリンを極力使わず、歩く、自転車に乗る」「温暖化防止に熱心な企業の製品を選ぶ」「地産地消を心がける」「ゴミを減らし、分別して、資源を有効に利用する」「食べ物を捨てない」などを、今こそ皆が本気で実践する必要があります。

さて、当行は3月17日、「第17回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門で環境大臣賞(最高賞)の栄誉に浴しました。「エコオフィス活動」「多様な環境対応型金融商品の取り扱いによる本業を通じた活動」「様々な環境ボランティア活動」の取り組み内容と、活動を紹介した「CSRレポート2013」歩みを、共に、「評価をいただきました。これもひとえに、当行の「環境保全への取り組み」に対する皆さまのご理解とご支援の賜物と、深く感謝しております。

授賞式の席上、受賞者挨拶のなかで私は「お金の流れで地球環境を守るといふ本業を通じた活動に更に注力していきたい」とお約束しました。銀行として、そして個人としても環境保全に向けた取り組みを更に強化してまいる所存です。ご支援をよろしくお願い申し上げます。